

(様式第1号)

研究No. (記載不要)	17 - 学長 - 3
-----------------	-------------

平成 17 年度配分 研究成果の概要

研究名	浜名湖沿岸地域における持続可能な地域環境の形成				
配分を受けた特別研究費	学長 特別研究費 3,770 千円				
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏名	共同研究の場合の分担
	デザイン学部	空間造形学科	教授	宮川 潤次	循環型生活環境 都市計画関連
共同研究者	デザイン学部	空間造形学科	教授	渡辺 章互	高齢少子化社会対応 高齢者居住環境
	デザイン学部	生産造形学科	教授	黒田 宏治	地域産業振興 地域観光
	文化政策学部	文化政策学科	助教授	田中 啓	循環型社会に向けた行政システム のあり方等
発表の方法 (予定で可)	1 紀要		号数	第 7 号 ( H19 年 3 月発行)	
	2 学会等での発表 学会等名:		発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日	
	3 その他 発表の方法:		発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日	

注:配分を受けた翌年度の6月末までに提出

(研究の目的等)

本調査研究では、21 世紀の浜名湖沿岸地域における持続可能な地域環境のあり方について、「環境・コミュニティ・観光」を今後の地域発展に不可欠な要素として仮定し、浜名湖と湖岸地域におけるエコロジカルな環境とコミュニティの形成、そしてそれを環境資源とした体験型観光と教育・研究の場としての地域の活性的利用の可能性を探った。

また、調査研究を通して、持続可能な地域計画に係わるノウハウを本学に蓄積するとともに、産・官・学・市民の協働、及び県内大学学生間の交流活動を進めることをめざした。

(研究の実施方法等)

研究推進の手法として、学外のメンバーを含む浜名湖地域研究会を設けるとともに、地球のたまごを拠点とする市民活動グループ「はまなこ学遊倶楽部」を発足し、勉強会やワークショップ等のイベントを通して関連情報の収集を行うとともに、情報分析により持続可能な地域づくりに向けての潜在的な資源、社会的な課題等を抽出した。

また、市民イベントを開催し、浜名湖の環境保全・再生、湖岸地域の持続可能な地域づくり活動の展開を呼びかけた。

(得られた成果等)

1. 浜名湖及び浜名湖沿岸地域に係わる総括的なデータが収集できた。
2. 今後の持続可能な社会づくりに対応した地域計画や運営手法等の事例研究等により、展開に向けての課題が抽出された。
3. 「地球のたまご」を拠点とした、産・官・学・市民が協働する地域活動ネットワーク形成が進められた。
4. 新浜松市における地域アイデンティティを生かした地域モデルとして「環浜名湖田園都市構想案」を提案した。